

子供も大人も「Well-being」の実現

☆☆六小の子供たちの強み☆☆
○明るく素直 ○誰とでも仲良く
○生活規律が身に付いている。
(あいさつ・時間を守る・靴・傘の整頓など)
○決められたことを実行できる。

第六小学校の教育目標
◎考える子・・・課題意識をもち、自分から学び、考え、伝え合い、学び合う子
助け合う子・・・生命や人権を尊重し、みんなと協力する心豊かな子
元気な子・・・未来を切り拓き、世界や社会で活躍する心身ともに元気でたくましい子

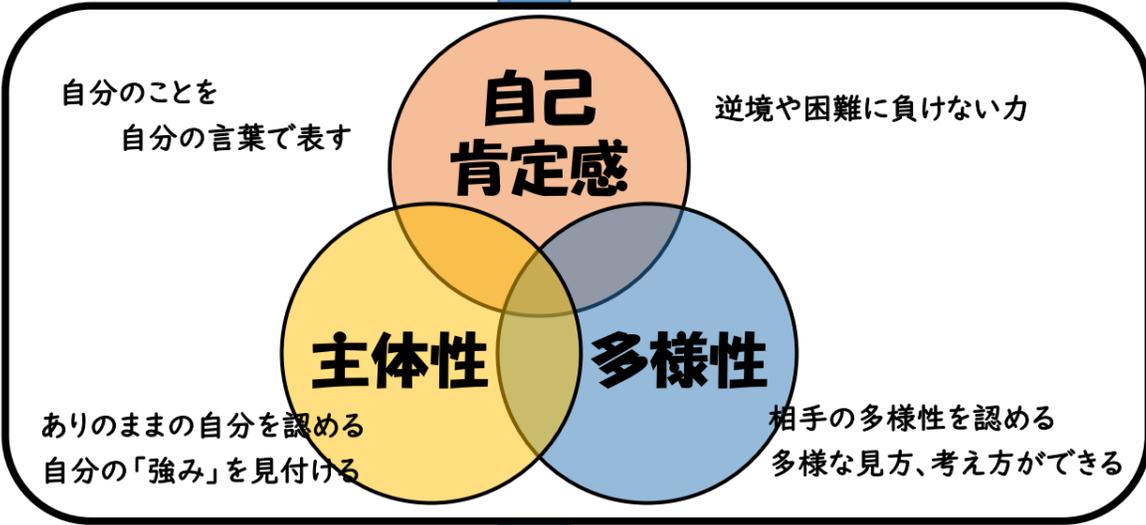
★六小の子供たちの課題★
○自分たちの・・・課題
○自分たちで・・・考える、すすんで動く
○自分たちの力で・・・解決する、よりよくしていこうとする

【これから子供たちが生きていく社会】
・2035年問題 ・Society 5.0 ・世界情勢等、分断、予測困難
・2050年(30年後)に活躍する人ってどんな人?

◎R6年度 第六小学校の目指す教育
『次代に生きる子供を育てる』
～人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供～

～今後の社会において求められる力～
○何が重要であるかを主体的に判断できること
○多様な人々と協働することができること
○新たな問題の発見・解決につなげることができること

目指す子供像 『人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供』
・「人間味あふれる」→人間としての幅が広いこと。相手の存在を認める、相手の考えを理解しようとする。
・「自ら考える」 →自分で考え、判断、行動、反省、責任をとる、PDCA サイクルを身に付けていること。
・「自ら学ぶ」 →事物や自然、人から学ぶ姿勢をもち、直接体験、間接体験を多く経験すること。



◎個性・能力に応じた教育
①教育は、子供理解に始まり、子供理解に終わる。
②教育の基盤は、信頼に支えられた人間関係である。
③学習指導の基本は、学習者の学習への動機付けである。
常に自らの指導観を振り返り、バージョンアップする教職員

☆指導するときの判断基準
①生命に関わるときは全員が指導する。【生命尊重】
②人権に関わるときは全員が指導する。【人権尊重】
③人に迷惑をかけたときは全員が指導する。【社会性の育成】
④既習経験がないときは全員が指導する。【未経験】
子供一人に対して、教職員全員が担任であるという意識を!

～R5 学力調査、学校評価からの課題～
○自分の考えをもつ・・・自分の考えをもつ【3.3】
○書く力・・・学力調査の結果
○プレゼン能力・・・すすんで発表する【3.0】
筋道立てて説明する【3.1】

◎学校経営の中心は「子供」
学校運営の判断基準＝「はじめに子供ありき」の観点
①子供にとってよいか ②教職員にとってよいか ③保護者、地域社会にとってよいか
・教育指導の評価は「子供が変容した姿」で勝負する。→具体的な根拠で示していく
・百の理論よりも、一つの実践を大事にする。→実践、学んだことの共有
・率先垂範。教職員自らがその生き様を子供に示す。

～R5 意識調査、学校評価からの成果～
○「好きなこと、もの、できるようになったこと、できたことが1つでも増えた」【3.7】
○学校は楽しい【3.5】
○先生は良いところや頑張ったところを認めてくれる。【3.6】
○自分には、よいところがあると思うかについて【肯定的な回答 83.7%】

◎「主体的・対話的で深い学び」のできる教職員 ◎「好きなこと・もの、できるようになったことを1つでも増やす」仕掛けを。 ◎感性を磨く＝広い視野で柔軟な支援・指導へ。

①校内研究の充実
・「振り返り・評価」に焦点を当てた授業づくり
・「考える、調べる、書く、発表・説明する、関わる」必然性のある仕掛け

②地域連携、地域貢献学習 (CSの推進[実践、実証])
校内研究、総合的な学習の時間等を通して、
・体験活動の充実
・地域に関する学び、地域に働きかける学びの実践

③教育のユニバーサルデザイン・インクルーシブ教育(ダイバーシティ)
・理解啓発授業
・学習規律
・「六小6つの『あ』」
授業のユニバーサルデザイン化
児童が学び合う関係づくり
教室環境のユニバーサルデザイン化
落ち着いて過ごし、学習活動に集中できる環境づくり
人的環境のユニバーサルデザイン化
学級にいる全員の見えが『わかる・できる』授業づくり